

JISA カナダ先端テクノロジー視察ミッション 概要報告

平成 29 年 10 月 9 日（月）～15 日（日）に、JISA 浜野 一典 副会長・グローバルビジネス拡大委員会 委員長（富士通エフ・アイ・ピー(株)）、伊藤 整一 理事・グローバルビジネス拡大委員会 副委員長（(株)網屋）、室脇 慶彦 理事（(株)野村総合研究所）をはじめとする 12 名がカナダ・トロントおよびウォータールーを訪問し、先端技術を活用したビジネスを展開するソフトウェア企業、アクセレレータや研究機関を視察した。下記にその簡単な概要を報告する。



なお、12 月初旬頃に、今回の視察報告を含め、カナダの先端テクノロジー企業を紹介するセミナーを開催する予定。

1. デカルト・システムズ社

1 日目はウォータールーに本拠を置くカナダ企業 3 社を訪問した。1 社目は、国内・国際の両面に渡って物流を支える IT サービスソリューションを提供するデカルト・システムズを訪問。世界 160 カ国に 16,500 以上の顧客を持ち、昨年の売り上げは 2 億ドル（240 億円）を超しており、この分野では世界で最大規模。すでに 12 年間継続して成長を続けており、最近の成長率は 10-15%、利益率は 30-35%とのこと。

物流は、あらゆる産業のベンダー・顧客を含むすべての企業や組織が必要とするので、顧客層は非常に幅広く、航空、船舶、陸上輸送、小売り、卸売り、製造などを含む。

日本でも、船舶関係の会社やロジスティック関係の会社と代理店契約などを結んでいるとのことだった。

2. オープンテキスト社

ウォータールーに本拠を置くカナダ企業の 2 社目はオープンテキストで、今回は、AI を活用した企業情報管理について紹介があった。同社は創業 25 年で社員数 12,000 人、Fortune 1,000 に入っている企業の 90%以上を含む 12 万の顧客を持ち、2017 年の売上高は 23 億ドル（約 2700 億円）。同社もまた、あらゆる分野の顧客を持っている。

同社の AI を活用したデータ・マイニング技術を持ち、世界中の情報を分析している。昨年

の米大統領選の時には、両候補に関する様々なオンライン上の情報を収集、分析し、様々なテーマについて、どちらの候補がどのような評価（報道）をされているかを分析し、興味深い結果が出ていたとの紹介があった。

3. ブラックベリー社

同社は、スマートフォンの草分けとして、一世を風靡した携帯端末の製造からはすでに撤退し、元々の強みであった、セキュリティに特化したソフトウェアやソリューション提供の会社として 3 年前より変革を行っており、財政面での改革やソフトビジネスへの移行のための買収を行ってきた。「Enterprise of Things (モノの企業)」の実現、つまり、企業に関わるすべてのもの、従業員、雇用者、顧客、デバイス、プロセス、システム、組織などのすべてを安全につなぎモバイル化する、包括的なプラットフォームを提供している。

毎日、1,000 万以上の「モノ」がインターネットに新たにつながっていき、増加するサイバー攻撃のダメージの大きさも深刻になりつつあるため、メール等でやりとりするファイルのセキュリティの管理も重要になる。ブラックベリーのセキュリティ・プラットフォームは、これらの企業に関わるすべてのセキュリティを包括的に管理するシステムとのことだった。

4. ウォータールー大学 量子コンピュータ研究所

2 日目は、量子コンピューティングの研究で有名なウォータールー大学の量子コンピュータ研究所を訪問した。同研究所は、ブラックベリーの共同創立者の一人であり、600 万ドルの（約 6 億円）の寄付をしたマイク・ラザリディスの名前を冠した研究所となっており、量子コンピュータの実現に欠かせないと言われているナノテクノロジー研究所と一緒の建物の中にある。

量子コンピュータ研究によりすでに量子センサーは実用化に近づいており、糖尿病患者の体内組織の中のグルコース量を、血液を採取することなく計測したり、ソーラーシステムで光をエネルギーに変換するのに、現在 14%であるのを 45%まで効率的に変換でき、がん細胞をより効率的に見分けられ、より効率的な石油発掘にも応用できているとのこと。

量子コンピューティング研究には多方面からの研究を同時に行う必要があり、日本の企業や研究機関とも協力していきたいとのことだった。

4. コミュニテック・ハブ

ウォータールー大学は、長年にわたり、大学での優れた研究と地域産業とで協力し、ベンチャー企業の育成に取り組んできており、このコミュニテック・ハブはベンチャー企業支援のために、大学、自治体、企業、連邦政府などが出資して運営している施設。昔の皮なめし工場跡の建物の中で、アイデアレベルのグループの育成から、大手スポンサーのいるスタートアップ企業まで、様々なレベルのスタートアップ企業の育成に取り組んでいる。

ここでは、「知的所有権は大学ではなく発明者のもの」という方針を採っており、この施設で企業の支援を受けて行った研究から生まれた特許で独立する企業がたくさんある。そのような好条件のため、世界中から起業を目指す優れたアイデアを持った若者が集まってきているとのことだった。

5. Beagle.ai

同社は、上述のコミュニテック・ハブから独立したスタートアップ企業の一つ。AI を使った機械学習で文章を自動解析し、各組織の判断基準のポリシーやコンプライアンスに沿って契約書を解析し、間違いの修正等を行うことにより、組織の契約書レビュー支援を行い、リスク低減、コンプライアンス向上、業務品質向上に貢献するソフトウェアを提供している。日本の顧客もすでにおり、さらに日本市場での展開を拡大したいとのことであった。

6. BlueCat 社

3 日目はトロントへ移動し、まず、BlueCat 社を訪問した。

同社は、ドメインネームを IP アドレスに変え、ソフトウェアで管理して監視する IP アドレス管理ソリューションを提供している。2001 年設立で現在 400 名程度の従業員がおり、4 年前に日本のオフィスも設立している。本社オフィスも、数週間前に以前より広くて新しいビルに移転し、売り上げも年々伸びているとのこと。

現在では、日本でも、トヨタ、日産、マツダ、味の素などの大手企業が同社のソフトウェアを採用しており、今後さらに増やしていきたいとのことであった。

7. カナダ国際関係省 トロント事務所

同省が中心となって進めている、北米で最大のイノベーション・ハブである MaRS (Medical and Related Science) について紹介があった。

MaRS は医療関係を中心として、エネルギー/環境関係、フィンテックなど、様々なテクノロジーを使った起業の支援や市場開拓サポートを行っている。MaRS にはすでに多くの支援企業やスタートアップ起業の 6000 名以上が入居しており、空きはなかなかでないとのこと。また、毎年、2000 以上のマッチングなどのイベントが MaRS 内で開催されている。MaRS の企業では、カナダ市民が健康な生活を送るよう、たくさん歩いたり食べ物に気を付けたりするとポイントが貰えるアプリが最近話題になったいるとのことだった。

8. Nuco.ai

ビットコインに次ぐ世界 2 番目の時価総額の仮想通貨イーサリアム・プロジェクトに参画するスタートアップ。

ブロックチェーン技術の 1 つ、イーサリアムのプラットフォームを活用した企業向け業務アプリケーションの企画、開発、導入を行う。また、イーサリアムやビットコイン、他のブロックチェーンが互いに通信し連携できる新しい仕組みのブロックチェーンのネットワークである Aion も開発中。Aion は多くの処理ができるスケーラブルで、プライバシーが確保でき、安全で、相互運用性がある。

世界にはすでに何百のブロックチェーンがあり、今後さらに増加し、数百万にもなると予想され、ブロックチェーン同士で通信する必要が出てくる。同社はそのエコシステムを構築する予定とのことであった。

以上